

## 米公共テレビの反ロシア・プロパガンダ・シリーズ（下）

【訳者注】この後半まで読むと、アメリカの命であるプロパガンダの、そこまでやるかというような、切羽つまった事情が見えてくる。笑えてくるのは、CIA では、ウソがうまく裏切りの多い者ほど出世が早いという、ある退職者の死の床での暴露話と、中でも特に信用できないポンペオ長官（4/4 の化学兵器事件は、シリアがやったとトランプを騙した）を、このドキュメンタリーが、“誠実さ”の裁定者に選んでいることである。もう一つ、笑えるのは、ここでも指摘されているように、ロシア人、または政府と“接触”することが、当然のように犯罪になることである。ロシアは、アメリカと戦争などしてない。アメリカのひとり相撲によって、敵にさせられているにすぎない。

NHK に当たるといふこのメディアで、このような反ロシア・プロパガンダが行われることに、どれくらい効果があるのだろうか？ こういうものに疑問をもつアメリカ人は、確実に増えているであろう。そして、こうしたものが一気に逆効果となり、政府不信と怒りが爆発する時が、近い将来、必ずやってくるだろう。しかし、今のアメリカが、そんなことを考えていられる状況にないことが、この宣伝工作から逆に読み取れる。

エピソード3：「なぜ、ロシア共和国からきたこんなに多くの者たちが、ISIS のために戦っているのか？」

このエピソードでは、このドキュメンタリーは――

・ロシアのムスリムたちが、長旅をして ISIS に加わるのを、合理化し、ほとんど正当化する。ドキュメンタリーは、宗教的な抑圧と差別が、ISIS への志願入隊の原因だと言い、「ISIS のために戦ったダゲスタン共和国の人々は、ロシアでは 10 年も前から、過激思想と戦争好きの典型になっている」と言う。

・アメリカ、サウジアラビア、そしてパキスタンが、ダゲスタン共和国で、イスラム過激思想を吹き込んだ役割を無視している。Robert Dreyfus が、著書 *Devil's Game: How the United States Helped Unleash Fundamentalist Islam*（悪魔のゲーム：どのようにアメリカが、過激イスラム主義の解放に貢献したか）で言っているように、CIA とパキスタン秘密警察の活動は、右翼のイスラム過激派の有力ネットワークを成長させ、今日まで、前ソ連邦の各政府を悩ませている――特に、ウズベキスタン・イスラム運動、イスラム主義解放党、チェチュニアやダゲスタンの強力なイスラム主義集団、など。

・アメリカやその同盟国の、ISIS 援助の役割を無視している。ジャーナリストの Patrick Cockburn が書いているように、「1996 から 2016 年の 20 年間に、CIA とイギリスの安全保障や対外政策部局は、アルカーイダや ISIS のようなテロ組織の排除の問題をめぐって、強力なスンニ派諸国との連携を維持することを、一貫して優先してきた。」

<http://www.independent.co.uk/voices/confused-about-the-us-response-to-isis-in-syria-look-to-the-cias-relationship-with-saudi-arabia-a7087791.html>

ジャーナリスト Nafeez Ahmed は、ここでトルコの役割を暴いた——「トルコの元反テロリズム高官は、エルドアン大統領の ISIS への故意の援助を、この地域での影響力を拡大し、国内では政敵を排除するための、トルコの地政学的道具であるとして、警鐘を鳴らした。」

<https://medium.com/insurge-intelligence/former-turkish-counter-terror-chief-exposes-governments-support-for-isis-d12238698f52>

アメリカの軍/情報部のある者たちは、「シリアの政権を孤立させる」ために、ISIS に力をもたせることを提案した。これは、防衛情報局の極秘 2012 レポートに、明らかにされた——いわく「東部シリア (Hasaka と Der Zor) に、宣言の有無は別にして、サラフィズム君主国家が設立される可能性がある。これこそまさに、反政府軍を支援している勢力が、シリア政権を孤立させるために、求めていたものである。」

<https://levantreport.com/2015/05/19/2012-defense-intelligence-agency-document-west-will-facilitate-rise-of-islamic-state-in-order-to-isolate-the-syrian-regime/>

要するに、ロシアや、他の世界中のムスリム集団から、ISIS 志願者がやってくるのは、アメリカと、サウジ、トルコのような同盟国の、政策や行動に刺激された結果である。これこそドレフュスが「悪魔のゲーム」と呼ぶものだが、それは、このドキュメンタリーでは無視されている。

#### エピソード 4 : 「プーチンを支持することの恐ろしいリスク」

このエピソードでは、このドキュメンタリーは——

・プーチンやロシア政府を批判する者は、死を含む“結果”に直面する、と言っている。こうした言いがかりは、西側では、たいていは、アメリカの援助による“活動家”の主張を根拠にして、広く喧伝されている。最も有名な例の一つで、米議会の対ロシア制裁の根拠になっているのは、セルゲイ・マグニツキーの例である。マグニツキーの死は、あるドキュメンタリーの主題になったが、アメリカでは効果的に禁止されてきた。何が起こったかを調査す

る過程で、映画製作者は、真理は、西側で言われていることとは大違いであることを知った。Gilbert Doctorow が、何が起こったかを、映画のレビューでここに説明している—  
<http://usforeignpolicy.blogs.lalibre.be/archive/2016/06/18/a-film-review-andrei-nekrasov-the-magnitsky-act-behind-the-s-1151743.html>

PBS ドキュメンタリーは、反対党のリーダーVladimir Kara-Murza の言葉を引用している——「我々は自由で公平な選挙をもたない。我々のメディアには検閲がある。我々には政治犯があり、今日それはロシアで 100 名を超えている。」カラムルザは現在“身の安全のために”ワシントンに住んでいるが、定期的にロシアへ帰る。彼は数回、毒殺されかかったことがあると言っている。

ロシア政府に反対する人たちは、待っていたように非難の声を上げるが、証拠はほとんど噂であり憶測である。ロシア市民の世論調査は、プーチンとその政府が広い支持を得ていることを、繰り返し示している。彼らは脅しと暴力によって支配しているという、このドキュメンタリーの主張とは、対照的である。

#### エピソード5：「ロシア人は、トランプとアメリカについてどう考えているか？」

内容からいえば、この最後のエピソードは、「アメリカの体制とメディアは、プーチンとロシアについて、どう考えているか？」とすべきである。このエピソードでは、このドキュメンタリーは——

・CIA 長官マイク・ポンペオの、ロシア大統領プーチンは「誠実さというものが英語に翻訳できない男だ」という言いがかりを、取り上げている。客観的なドキュメンタリーならば、“誠実さ”を CIA が主張すれば、健全な疑りをもってこれを受け取るであろう。ほんの数年前、国家情報省のジェームズ・クラッパー元長官が議会に、誓ってウソをついたことが確認された。対敵情報活動の元 CIA チーフ、ジェームズ・アングルトンは、晩年、死が迫ったとき、「基本的に言って、アメリカ情報局の父祖たちは、ウソつきだった。ウソがより上手で、より多く裏切るほど、あなたの昇進は早くなる」と言った。だから、この PBS ドキュメンタリーが、新しい CIA 長官を、無批判に、誠実さの裁定者として引き合いに出すのは、どう考えても不思議である。

<https://consortiumnews.com/2017/06/15/clappers-unhinged-russia-bashing/>

[https://books.google.com/books?id=ws90BQAAQBAJ&pg=PA391&lpg=PA391&dq='james+angleton'++'the+founding+fathers+of+u.s.+intelligence+were+liars'&source=bl&ots=wvYlFXFkpC&sig=uhA\\_RQuhfv7GiVMdijPSALcvhxA&hl=en&sa=X&ved=0ahUKEwji pMPk16XVAhWrllQKHajUA2MQ6AEIKDAA](https://books.google.com/books?id=ws90BQAAQBAJ&pg=PA391&lpg=PA391&dq='james+angleton'++'the+founding+fathers+of+u.s.+intelligence+were+liars'&source=bl&ots=wvYlFXFkpC&sig=uhA_RQuhfv7GiVMdijPSALcvhxA&hl=en&sa=X&ved=0ahUKEwji pMPk16XVAhWrllQKHajUA2MQ6AEIKDAA)

・トランプ大統領が、ロシアが 2016 選挙をハックしたという満場一致の米情報局共同体の考えに、疑問を呈するのは、非常識だと言おうとしている。最近、明らかにされたことは、“満場一致の考え” というのは、実は、クラッパー元 DNI 長官の配下の 3 つの情報局の、わずかのアナリストのものであって、17 の情報局全部のものでなく、国家安全保障局は、この核心の見解に“高い信頼”を寄せていない、ということだった。

<https://consortiumnews.com/2017/06/29/nyt-finally-retracts-russia-gate-canard/>

2017 年 3 月に、この調査を依頼された私企業の Crowstrike が、ロシアの“ハック”と言われたものの別の調査で、虚偽の主張をしていたことが明らかになった。しかし CIA も FBI も、民主党全国委員会 (DNC) のコンピューターを調べなかった。もしこの問題が、今言われているほどに重要なものであったのなら、FBI が自分自身の調査をすべく召喚状を出すべきであった。なぜ DNC が FBI の要求を拒否し、FBI はそれを強く主張しなかったのかは、続いて騒がれ非難されたような、深刻な問題である。

<https://www.voanews.com/a/cyber-firm-rewrites-part-disputed-russian-hacking-report/3781411.html>

・いい加減な非難をし、ロシア人と“接触”することを効果的に犯罪化する、2 人の政治家を、無批判に登場させている。James Lankford 上院議員 (共 - オクラホマ) は、トランプ大統領が、「クレムリンの政策と一致する、いくつかのメッセージを発しており、…ロシア政府が我々の選挙にハックしようとしていたことは明らかだ」と言っている。しかし、このような分野に経験をもつ、元米情報局高官たちが、最近、この常識的な知恵の問題について、重大な疑問を投げかける証拠を提出した。 <https://consortiumnews.com/2017/07/24/intel-vets-challenge-russia-hack-evidence/>

民主党側では、バージニア選出の Mark Warner 上院議員が、上院の調査は、それが始まる前からわかっていたことだと指摘する。彼はこう言った——「この調査の目標は、ロシアの介入を再確認して、それを米国民に説明するだけでなく、トランプとロシア政府の間に接触があったのかどうかを確かめることだ。」

現在の環境においては、ロシア人と“接触する”ことが犯罪になっている。その行動が本当だったか、それが賢明だったかを問うことなく、このドキュメンタリーは、それを認めるような態度を示している。

・無批判に、虚偽の言葉や無謀な脅迫を重視している。ランクフォード上院議員は言う——「我々は、ロシアがウクライナを脅迫し、隣国を脅迫し、NATO を脅迫するために、また

我々の選挙だけでなく、よその国の選挙をも邪魔しようと、ずっとやっていることは、不安定化だと強く信じている。それには報復が必要だ。彼らが選挙の時にやったことに対して、彼らはまだ、その正当な結果を与えられていない。」

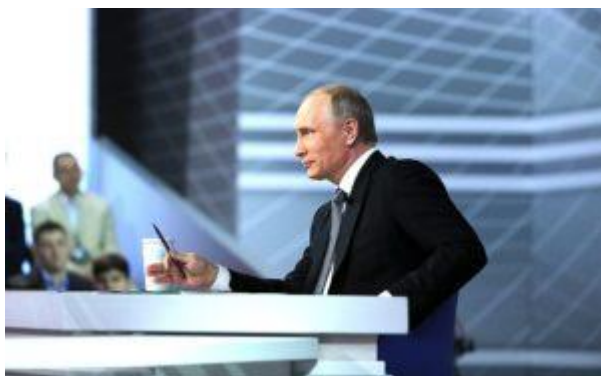
このランクフォードは、これを事実として言っているが、これはきわめて疑わしいか、明らかな虚偽である。たとえば、ドイツ、フランス、そしてイギリスの安全保障局はすべて——国際的な非難にもかかわらず——ロシアが彼らの最近の選挙に干渉したという、どんな証拠もないと言明している。

<http://www.newsweek.com/germany-russia-interference-elections-fake-news-553593>

<https://www.apnews.com/fc570e4b400f4c7db3b0d739e9dc5d4d/The-Latest:-France-says-no-trace-of-Russian-hacking-Macron>

<https://www.usnews.com/news/world/articles/2017-06-16/british-say-election-was-free-of-russian-meddling>

・ロシアの“処罰”を正当化し、推奨している。ランクフォードやワーナーの好戦的なアプローチは、PBSホストのJudy Woodruffや、ナレーターのNick Schiffrinによって引き継がれている。アメリカは不吉な未来をもった、傷つきやすい犠牲者として描かれている。ロシアは、脅迫する者、やがて何らかの処罰を受けねばならぬ者、として描かれている——「ロシア政府は、昨年末、起こったことによって、米政府が彼らを本当に有罪としたことを、そのように感じていない。…ワシントンの多くの高官がそれについて合意している…ロシアは、彼らが昨年末やったことに対して代価を支払うべきだった。」



2016年4月14日、年恒例のQ&A大会において、ロシア市民からの質問に答えるウラジミール・プーチン・ロシア大統領

この脅すような話し方は、ナレーターからの次の裁定的評価に続いている——「モスクワには、我々が望みうる唯一のことは、戦争を避けることだと考えるアナリストがいます。」

2002 - 2003 年間、アメリカの主流メディアは、CIA や政治家たちのイラク侵略肯定の意見に、疑問を呈することも挑戦することもなかった。その当時、虚偽の見せかけは、イラクが

太陽破壊兵器をもっていて、アメリカを脅しているというものだった。

メディアの多くと、同じ政治家の多くが、今、ロシアは“我々を攻撃した”敵だと主張している。この言いがかりは、真剣に疑われもせず挑戦もされず、広く言いふらされている。“リベラルな”メディアも、この問題に関しては、タカ派のネオコンと連携しているようだ。ロシアとそのリーダーを貶める、ほとんどどんな言いがかりも、証拠もなくでっちあげることが許され、罰を受けることもない。

PBS ドキュメンタリー「プーチンのロシアの内部」は、ロシアの抑圧、侵略、そしてニセ情報を暴こうとするものである。上の多くの例に示されているように、この 5 部からなるドキュメンタリーは、高度な偏見による、不正確なものである。ロシアのある特徴を示しているとはいうものの、それはまた、現在の混乱の時代の、アメリカのプロパガンダの典型的なものでもある。

——以上